

株出し多収さとうきび新品種「はるのおうぎ」

鹿児島県熊毛地域ではさとうきび栽培農家戸数の減少などにより収穫面積の減少が進んでいます。主力品種「NiF8（農林8号）」は糖含有率が高く、耐病性に優れていることから同地域で50%程度栽培されていましたが、収穫後に再生する萌芽茎を育てる株出し栽培では収量が減っていることが問題となっていました。農研機構は国際農研と共同で、株出し栽培で多収であるさとうきび新品種「はるのおうぎ」を開発しました。同地域で1150ha普及することが見込まれており、収穫面積減少に歯止めがかかることが期待されています。

☆ 技術の概要

1. 「はるのおうぎ」は、多回株出しでの収量性に優れる飼料用さとうきび品種「KRFo93-1」を母本、早期高糖で一茎重が重い製糖用サトウキビ品種「NiN24」を父本とする交配により得た種子を、株出し多収性と高糖性を重視して選抜した品種です（図1）。
2. 茎数が極めて多く、熊毛地域における原料茎重と糖収量は、春植え、1回株出し、2回株出しのいずれにおいても「NiF8」より多収です（図2、3）。
3. その他の形質としては、萌芽性は“極高”、耐倒伏性は“強”、黒穂病抵抗性は“弱”、脱葉性は“難”です。



図1 はるのおうぎ草姿

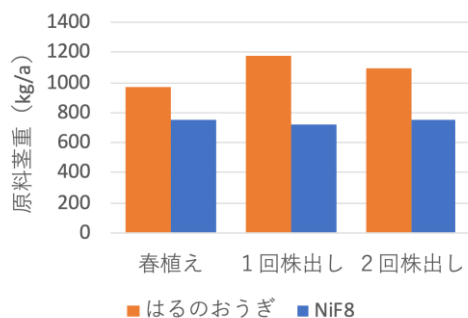


図2 作型別原料茎重の比較

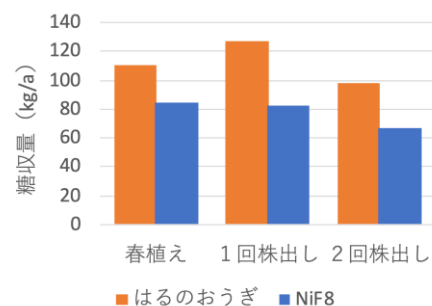


図3 作型別糖収量の比較

☆ 活用面での留意点

1. 黒穂病抵抗性が“弱”であるため、適切な採苗圃の設置、植え付け時の苗消毒、黒穂病発生時の株の抜き取りをお願いいたします。
2. 収穫後に品質劣化が生じる場合があるため、速やかに製糖工場に搬入してください。

（農研機構 九州沖縄農業研究センター 暖地畑作物野菜研究領域 田村泰章）